

リハビリテーション部

1 スタッフ（2023年度現在）

部長（教授）（兼）	秋山 達 （整形外科）
室長	関根 一樹 （理学療法士）
室長補佐	滝沢 友里 （言語聴覚士）
主任理学療法士	門手 和義 姫島 美幸
主任作業療法士	笹井 祥充
参与	永井 勝信 （理学療法士）
理学療法士	20名（役職者を含む）
作業療法士	6名（役職者を含む）
言語聴覚士	3名（役職者を含む）

2 リハビリテーション部の特徴

- ・学会等の認定資格
- 心臓リハビリテーション指導士（10名）
- 3学会合同呼吸療法認定士（9名）
（公社）日本理学療法士協会
認定理学療法士（呼吸）
認定理学療法士（代謝）2名
認定理学療法士（運動器）
- 集中治療理学療法士
- リンパ浮腫療法士
- 認定作業療法士
- 糖尿病療養指導士（3名）
- 心不全療養指導士
- ACLSプロバイダー
- 日本褥瘡学会認定師
- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士

・所属団体、所属学会 等

- （公社）日本理学療法士協会 20名
- （一社）日本作業療法士協会 6名
- （一社）日本言語聴覚士協会 3名
- 日本心臓リハビリテーション学会
- 日本呼吸ケアリハビリテーション学会
- 日本集中治療医学会
- 日本心不全学会
- 日本循環器学会
- 日本リンパ浮腫治療学会
- 日本高次脳機能障害学会
- 日本老年療法学会
- 日本乳癌学会
- 日本摂食嚥下リハビリテーション学会
- 日本リハビリテーション栄養学会
- 日本褥瘡学会
- 日本臨床疫学学会
- 日本聴覚医学会
- 日本音声言語医学会

3 2023年度診療実績

- ・診療日数 298日（前年度日 1日増）
- ・依頼件数 7,945件（同 508件増）
理学5,123件 作業1,479件 言語1,343件
- ・実施件数 60,738件（前年度比 965件増）
理学42,543件、作業12,146件、言語6,049件
- ・疾患別リハビリでは以下の診断名が多かった。
心大血管：大動脈弁狭窄症、うっ血性心不全、腹部大動脈瘤、心不全、僧帽弁閉鎖不全症
脳血管疾患：脳梗塞、早産児、脳出血、心

原性脳塞栓症、両感音難聴、
脳腫瘍、頸椎症性脊髄症
廃用症候群：尿路感染症、消化管出血、
慢性腎不全、敗血症性
ショック

運動器：脊柱管狭窄症、大腿骨頸部骨
折、大腿骨転子部骨折、椎間板
ヘルニア

呼吸器：肺炎（誤嚥性、細菌性、間質
性）、肺がん、COVID-19、膿胸
がん：胃がん、直腸がん、急性白血病
（リンパ性、骨髄性）、乳がん、膝
頭部がん

4 多職種連携に関する取組（カンファレンス等）

整形外科（毎週木曜 15：30～）

脳神経外科、脳神経内科
（毎週月曜 14：00～）

総合診療科（毎週金曜 13：40～）

5階B病棟（脳内のみ）
（第2・4火曜 14：30～）

6階西病棟（第1・3木曜 11：00～）

6階東病棟（第2・4木曜 15：00）

5階東病棟（毎週金曜 13：40～）

ICU・CCU（毎日8：15～）

（月・水・金曜 回診終了後）

6階A病棟（移植）（第2・4木曜 13：30～）

緩和ケアミーティング

（第1・3月曜 16：45～）

人工呼吸器ラウンド（毎週水曜 13：30～）

NSTカンファレンス（毎週月曜 16：20～）

形成外科（外傷）（第1月曜 16：30～）

・他職種への情報提供と協働（勉強会開催等）
新人看護職員研修（他職種Ⅳ）

RST勉強会（サポートスタッフ）

緩和ケア研修会（サポートスタッフ）

移乗方法についての講習会（研修医向け）

5 研究・学会活動

【論文】

Takeshi Unoki, Kei Hayashida, Yusuke Kawai, Shunsuke Taito, Morihide Ando, Yuki Iida, Fumihito Kasai, Tatsuya Kawasaki, Ryo Kozu, Yutaka Kondo, Masakazu Saitoh, Hideaki Sakuramoto, Nobuyuki Sasaki, Ryuichi Saura, Kensuke Nakamura, Akira Ouchi, Saiko Okamoto, Masatsugu Okamura, Tomoki Kuribara, Akira Kuriyama, Yujiro Matsuishi, Norimasa Yamamoto, Shodai Yoshihiro, Taisuke Yasaka, Ryo Abe, Takahito Iitsuka, Hiroyasu Inoue, Yuki Uchiyama, Satoshi Endo, Kazuki Okura, Kohei Ota, Takahisa Otsuka, Daisuke Okada, Kengo Obata, Yukiko Katayama, Naoki Kaneda, Mio Kitayama, Shunsuke Kina, Ryuichi Kusaba, Masanari Kuwabara, Naoki Sasanuma, Masahiro Takahashi, Chihiro Takayama, Naonori Tashiro, Junko Tatsuno, Takahiko Tamura, Mitsuhiro Tamoto, Asuka Tsuchiya, Yusuke Tsutsumi, Tadashi Nagato, Chihiro Narita, Tomohiro Nawa, Tadayoshi Nonoyama, Masatoshi Hanada, Kotaro Hirakawa, Akiko Makino, Hirotaka Masaki, Ryosuke Matsuki, Shinya Matsushima, Wataru Matsuda, Saori Miyagishima, Masaru Moromizato, Naoya Yanagi, Kota Yamauchi, Yuhei Yamashita, Natsuhiro Yamamoto, Keibun Liu, Yuki Wakabayashi, Shinichi

Watanabe, Hiroshi Yonekura, Nobuto Nakanishi, Tetsuya Takahashi, Osamu Nishida & The Committee for the Clinical Practice Guidelines of Early Mobilization and Rehabilitation in Intensive Care of the Japanese Society of Intensive Care Medicine : Journal of Intensive Care volume 11, Article number: 47 (2023)

【学会発表】

- 1) 関はるな、猿子美知、谷直樹、会田慶太、関根一樹、永井勝信、宇賀田裕介、和田浩、藤田英雄：ポスターセッション28：肺動脈性肺高血圧症患者に対する入院期の心臓リハビリが復職に寄与した一例。第29回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、2023年7月15-16日、横浜
- 2) 安部諒、会田慶太、谷直樹、塩塚潤二、木村直行：循環器Hot topic 2：超音波検査を用いて測定した下肢筋肉量と筋質は高齢心臓外科患者の術後歩行能力を予測するか。日本呼吸・循環器合同理学療法学会学術大会、2023年9月2-3日、東京
- 3) 会田慶太、宇賀田裕介、関根一樹、谷直樹、猿子美知、笹井祥充、関はるな、和田浩、永井勝信、藤田英雄：理学療法1：外来心血管疾患患者におけるフレイルおよび運動耐容能低下の合併と繰り返す心血管イベントの関連についての検討。第29回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、2023年7月15-16日、横浜
- 4) 会田慶太、宇賀田裕介、関根一樹、谷直樹、猿子美知、笹井祥充、関はるな、安部諒、牧尚孝、和田浩、坂倉建一、藤田英雄：大会長審査口演：診察室で可能なOffice-based frailty scoreで定義したフレイルと繰り返す心血管イベントの関連性の検討。日本呼吸・循環器合同理学療法学会学術大会、2023年9月2-3日、東京、奨励賞
- 5) 井上美穂、笹井祥充、菊池麻依子、伊古田雅史、外川佑：脳腫瘍術後早期における自動車運転再開支援の試みー脳浮腫の影響に着目した一症例ー。第57回日本作業療法学会、2023年11月10-12日、沖縄
- 6) 笹井祥充、谷直樹、井上美穂、会田慶太、安部諒：新型コロナウイルス感染症患者の出産後の子育への不安に対して作業療法を行った一症例。第57回日本作業療法学会、2023年11月10-12日、沖縄
- 7) 谷直樹、吉田昌志、安部諒、会田慶太、木村直行：サルコペニア・フレイル2：糖尿病の有無が心臓血管外科術後患者の筋肉量、筋輝度の変化に与える影響。第66回日本糖尿病学会年次学術集会、2023年5月11日～5月13日、鹿児島
- 8) 谷直樹、会田慶太、宇賀田裕介、牧尚孝、和田浩、関根一樹、藤田英雄：優秀症例演題セッション2：地域・病院との連携した心臓リハビリテーションの継続が植込型左室補助人工心臓の離脱の一助となった症例。第29回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、2023年7月15-16日、横浜（優秀賞受賞）
- 9) 谷直樹、宇賀田裕介、山本悠慎、会田慶太、安部諒、笹井祥充、森下雄貴、

平良悠、関根一樹：心疾患・呼吸器疾患Ⅰ：人工呼吸器管理下の高負荷運動療法が早期歩行獲得に繋がった1症例. 第42回日本臨床運動療法学会学術集会、2023年10月14-15日、栃木

- 10) 猿子美知、関はるな、山本悠慎、会田慶太、谷直樹、関根一樹、宇賀田裕介、牧尚孝、藤田英雄：心疾患・呼吸器疾患Ⅰ：在宅運動療法の負荷量増加により運動耐容能が向上した慢性心房細動を伴う心不全症例. 第42回日本臨床運動療法学会学術集会、2023年10月14-15日、栃木
- 11) 荒木浩二、森下雄貴、山本悠慎、姫島美幸、関根一樹、秋山達：ポスター14：腫瘍用人工関節施行8か月後に疼痛が出現し、薬剤による疼痛管理が困難で理学療法を施行した症例. 第11回日本運動器理学療法学会学術大会、2023年10月13-15日、福岡

【その他】

山本悠慎：糖尿病とともに歩む人へのアプローチ「理学療法士からみた治療支援」、第32回埼糖協医療スタッフ研修会～糖尿病とともに歩む人への治療支援を考える～、2023年8月19日、さいたま市

6 事業計画、目標に対する達成度

○2023年度 目標設定

- ・高度急性期病院として地域から求められている当センターの役割に貢献するため、必要なリハビリテーションの提供を行う
- ・安全で質の高い医療を提供するために、適切な人員配置の検討を行う

○目標達成度の評価

- ・2023年度は実施件数、算定単位数、収益全てにおいて増加していた。理学療法士2名、作業療法士1名、言語聴覚士1名の増員によるものであると考えられる。一方、年間を通しての体調不良による休職者が1名、産休育休取得者が1名、年度途中での産休取得者が2名おり、依頼件数の増加に伴い職員の業務負担が増加している可能性がある。介入が必要な患者に時間をかけて行うなど、効率的に算定できるよう検討していくことが今後の課題である。

○2023年度リハビリテーション部実績

算定単位数 90,376単位

(前年度比 3,742単位増)

収益 208,995,100円

(同 7,798,400円増)

○2024年度 目標設定

「誰からも必要とされる、誰からも信頼されるリハビリテーション部を、スタッフ全員で協力し作っていく」

(主な取り組み)

- 1, 臨床業務、教育活動の確立
- 2, 学術活動
- 3, 管理運営
- 4, その他

- 1, 臨床業務、教育活動の確立

○症例に即した適切な評価、リスク管理、治療技術が行えるようスキルアップを図る

- ・ 院外研修会への参加
 - ・ 認定資格の取得
 - 新人教育は新人担当の療法士を中心に、各チームと部内全体でサポートする
 - 学生指導を通じて後進の育成、自身のスキルアップを図る
- 2, 学術活動：学術活動を通じて、自身や部内のスキルアップに努める
- 学会発表について
 - ・ 研究活動が望ましいが、難しい場合は症例報告等、普段自分が実施していることを発表し、他施設からの助言を受けながら実績を積んでいく
 - 学会、研究会への参加について
 - ・ 積極的に参加し新しい情報を取り入れ、臨床業務に生かす
- 3, 管理運営
- 疾患別リハビリテーション料の安定的な取得
 - ・ 1日18単位（以上）で予定を組む。時短勤務者は12単位。
 - ・ 介入が必要な患者には時間をかけて治療を行う（2～4単位）
 - 患者治療終了後はカルテ記載や書類業務を速やかに行い、超過勤務を最小限にするよう、各部門内で調整する
 - 疾患別リハビリテーション料以外
 - ・ 「退院時リハビリテーション指導料」
 - 「リハビリテーション総合計画評価料」の算定件数増加を目指す
- 4, その他
- 増員計画について
 - ・ 現状の患者数に十分な対応ができるための人員配置を計画し、必要な人員を要望する
 - 他部署や附属病院との連携、交流を図る